



消防団に入団しませんか？あなたの力が必要です！



<彦根市消防団任用資格>
男女問わず次の①～③に該当すれば入団可能です。
①市内に居住し、勤務し、または通学する者
②18歳以上の者
③団の職務の遂行に堪え得る心身を有すると認められる者

消防団は、その人員動員力と地元に着した即応力の高さから、地域の安心・安全、防災の要として欠かすことのできない存在です。しかしながら、年々消防団員数は減少しており、新たな消防団員の確保も、地域によっては難しくなっている状況です。

消防団員が不足することは、地域防災力の低下を意味しています。地域に最も密着した防災組織である消防団に、多くの方の入団をお願いします。

女性消防団員は、災害への対応はもとより、広報活動、予防指導、災害時要援護者対策などの部門で、その能力を発揮した活躍が期待されています。市の女性消防団制度（ヒコネサンフラワーズ）は昭和63年に採用され、現在12人で活動されています。更なる活性化のため、多くの女性の入団をお願いします。

消防団協力事業所表示制度

「消防団協力事業所表示証（下の写真）」を交付し、地域での当該事業所の社会貢献を広報し、地域住民や他の事業所からの理解を一層深め、消防団員の入団促進を図るための制度です。



事業所のイメージのために、本シアターをご利用ください！

【交付の対象】消防団に入団している従業員が2人以上いる事業所や消防団の訓練場所、災害の発生時に事業所の資機材を提供するなど彦根市消防団に積極的に協力している事業所など



特別公開

5月15日(日)まで
「国宝・彦根屏風」
近代初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を特別公開します。

テーマ展

5月18日(水)～6月20日(月)
「軍記物語の世界一語り継がれる名場面」
平家物語など、戦を題材とした軍記物語。そこに描き出された登場人物の武勇や悲話などは、後世の美術工芸品や芸能に大きな影響を与えました。本展では、軍記物語にまつわるさまざまな作品を、館藏品の中から紹介します。



▲宇治川先陣図二所物(部分)

■スライドトーク
【日時】5月21日(土)14:00～(30分程度)
【解説】当館学芸員 【場所】講堂
※無料(観覧料は別途必要)
※当日受付(先着35人、受付は13:30～)

<私の研究最前線>

彦根城博物館の学芸員が、各自の研究テーマについて、日頃の研究成果を踏まえて解説します。

6月4日(土)14:00～15:30
「二十歳の直弼、江戸へゆく」

井伊直弼は、天保5年(1834)、養子縁組のため江戸に行き、1年余り滞在しました。直弼自作の旅日記「露分衣」などから、当時の直弼が置かれた状況や彼の心境を探ります。



▲露分衣

【講師】当館学芸員 【場所】講堂
※資料代100円(観覧料は別途必要)
※当日受付(先着35人、受付は13:30～)

■5月16日月、同17日火は、展示替えのため一部休室します。

チケット情報

ひこね市文化プラザ
7月23日(土)14:00 / 17:00 グランドホール
純烈 CONCERT2022 ゲスト:堀 絵依子 彦根古城太鼓
指定 [5月3日(火・祝)9:00～予約開始]
一般6,000円 高校生以下1,000円
※当日500円増
[4月24日(日)9:00～予約開始] 友の会 5,500円
高校生以下1,000円
※当日500円増
ムード歌謡で高身長を活かしたパフォーマンスが大人気の「スーパー銭湯アイドル」純烈が彦根にやってきました。

みずほ文化センター
5月28日(土)14:00 多目的ホール
彦根亭 みずほ寄席 Vol.43 梶川公演
6月18日(土)14:00 多目的ホール
人形劇団むすび座 おさんぽ劇場
7月18日(月・祝)14:00 多目的ホール
伝統芸能スペシャルライブ「名手共演」
民謡・津軽三味線・和太鼓・津軽手踊り

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

【ひこね市文化プラザ・みずほ文化センターでは、次の感染症対策を実施しています】
▶館内設備の定期消毒 ▶手指消毒液の設置
▶飛沫飛散防止カーテンの設置 ▶非接触型体温計の常備 ▶新型コロナウイルス感染拡大防止システム「もしサポ滋賀」の表示の設置

名場面を表す―場面の展開と二所物―

とまきの玉手箱

歴史上の戦を題材にした軍記物語の代表作といえ、平安時代末期に起きた源平の合戦に取材した『平家物語』です。その中には、打倒平家を謀って流刑となり、生涯都へ帰ることを切望した俊寛や、我が子と同じ年の若武者・平敦盛を討たねばならなかった熊谷直実の話など、印象深いものが多く、これらの逸話は、絵画の画題や能をはじめとする芸能の題材として取り入れられていきます。
寿永3年(1184)に京の宇治川が舞台となった戦いにも、画題として描かれる一場面があります。「宇治川の先陣争い」と題されるものです。川を挟んで木曾義仲の軍と源範頼・義経が率いる軍勢が対峙すると、源軍から2人の騎馬武者が先陣を切るために飛び出します。この武者は、佐々木高綱と梶原景季です。
最初、梶原が先行しますが、馬に鞍を固定するための腹帯を締め直すことを佐々木から助言され、馬を止めます。その際に佐々木は宇治川に入り、先陣を切ることに成功しました。
どちらが先陣を切るかという緊迫感と疾走感に加え、梶原が佐々木に不意をつかれる点が見どころのエピソードです。
この場面を巧みに表現しているのが、上の写真の二所物です。二所物とは、刀の鞘に付属す



▲宇治川先陣図二所物

る髪を調えるための筭と小刀として用いる小柄に付ける目貫の3種の金具のうち、2種類の金具が一緒になっているものを指します。また二所物には、同一の画題を表すのが通例です。
筭と小柄の柄部分が一緒となった本作も、「宇治川の先陣争い」を主題として、筭には、先行する梶原に声を掛ける佐々木が(左の写真上)、小柄には、梶原を追い越して宇治川に入る佐々木が(左の写真下)描かれています。
刀装具には、筭と小柄以外にも、鐙や柄の両端に嵌める金具がありますが、物語の展開を端的に表現するには、筭と小柄の組み合わせが打って付けです。そのため、「宇治川の先陣争い」のように、話の前後の展開に特色がある逸話を表すには、筭と小柄からなる二所物が最適と考えられ、所有者もこの視覚的なおもしろさを楽しんだのではないでしょう。



▲【筭の場面】梶原(右)に声を掛ける佐々木(左)



▲【小柄の場面】梶原(右)を追い越して川に入る佐々木(左)

写真の作品は、テーマ展「軍記物語の世界一語り継がれる名場面」で、5月18日(水)6月20日(月)まで展示します。

彦根城博物館学芸員 古幡昇子